

## 「真実な方キリスト」第Ⅱテサロニケ3章1—5節

パウロは今日の3章で「兄弟たち、私たちのために祈って下さい。」と祈りを彼らに要請しています。それではパウロはここで具体的にどのようなことを彼らに祈り求めているのでしょうか。今日はこのパウロの祈り、願いから三つの点から学んでみたいと思います。

まず第一にパウロは、1節で「私たちのために祈ってください。主のことばが、あなたがたのところと同じように速やかに広まり、尊ばれるように。」とお願いしています。

パウロは自分のことより「主のことばが速やかに広まること」を願い、祈り求めています。それは、パウロは今、コリントにおいてテサロニケ教会の兄弟たちにこの手紙を書いているわけですが、コリントの地での伝道が本当に困難を極めていたからではないでしょうか。コリントの町は経済的に繁栄した大都市ではありましたが、非常に世俗化し、道徳的に退廃し、墮落した町でありました。それに比べてパウロのテサロニケでの伝道はわずか三週間足らずの滞在ではありましたが、多くの人々が救われ、教会が建設されたのです。だからこそ迫害も激しかったのです。テサロニケ、ベレヤ、アテネと厳しい試練を経て、今またコリントにおいて困難な状況の中で宣教活動に従事しているパウロにとって、テサロニケ教会の形成は何よりも大きな慰めであり、励ましであったのではないのでしょうか。だからこそ、テサロニケの町においてそうであったように、このコリントの町でも同じような成果が得られるようにとパウロは願い、祈りを求めているのです。

次に第二番目のパウロの祈りの要請について見てみたいと思いますがパウロは2節で「私たちが、ひねくれた悪人どもから救い出されるように祈って下さい。」と要請しています。

伝道に反対や困難はつきものでありますが、特にパウロの伝道は多くの困難を伴いました。事実、パウロはテサロニケでもコリントでも「ひねくれた悪人ども」によって苦しめられていたのです。それでは、この「ひねくれた悪人ども」とは一体誰のことを指しているのでしょうか。これは外部から教会を迫害するユダヤ人たちや異教徒たちのことを指していると言う者がおります。確かにそうとも言えますが、パウロはここでその後、「すべての人に信仰があるわけではないからです。」と語っています。もしもこのひねくれた悪人どもがユダヤ人や異教徒を指しているならば、彼らは元々キリスト信仰などないわけですからこのようにいうのはおかしいと言えます。ですから、私はこの「すべての人に」という言葉は、これは明らかに「教会の中にいるすべての人に信仰があるわけではないからです。」と解釈した方がよろしいかと思えます。つまり自分はクリスチャンであると自称する者たちの中に、実は「ひねくれた悪人ども」がいたということです。パウロはこのような「ひねくれた悪人ども」との戦いをコリント教会の中で経験していたのです。しかしそれはパウロの時代だけの話ではありません。今日の時代の教会においても、このような「ひねくれた悪人ども」、クリスチャンであると自称していながら実は全然信仰を持っていない者たちがおり、教会を混乱や分裂に陥れているのです。

パウロはこのように語った後、「主は真実な方です。あなたがたを強くし、悪い者から守って下さいます。」と彼らの目を神さまご自身に向けさせています。何故ならこの「主の真実」こそパウロの信仰が決して揺るぐことがない立つべき信仰の基盤であり、秘訣であるからです。私たちが辛い試練の中にあって押しつぶされそうになる時、信仰が揺らぎ、主から離れそうになる時、主を仰ぎ見るのです。「主の真実」を見るのです。何故ならこの主なる神こそ教会を真に生かし、成長させ続けてくださる唯一のお方だからです。パウロはこのように確信に立って最後に彼らテサロニケ教会のクリスチャンたちのために祈っています。

パウロはここで、第三番目の祈りとして、5節で「主があなたがたの心を導いて、神の愛とキリストの忍耐に向けさせてくださいますように。」と今度は彼らのために祈っています。

まずパウロは彼らの心、全人格が「神の愛」と「キリストの忍耐」に向けられるようにと祈っています。何故ですか。それは彼らの心が「神の愛」と「キリストの忍耐」に向けられることによって彼らの試練に対する勝利が与えられるからです。この「神の愛」とは何よりもイエス・キリストの十字架の救いを通して私たちに示された神の愛であります。また「キリストの忍耐」とはイエス・キリストの十字架の忍耐を指しています。パウロもまたテサロニケ教会のクリスチャンたちが直面している試練よりももっと辛い多くの試練を経験していました。しかしそんなパウロだからこそ主の真実を信じ、そのような試練の中で神の愛とキリストの忍耐に目を向けることこそ試練を乗り越える力があることを知っているのです。

それでは最後に、このパウロの祈りの要請からどのようなことを私たちは学ぶことができるのでしょうか。何故パウロはここで互いに祈り合うことを彼らに求めているのでしょうか。

それはまず第一に祈りは私たちの神への信仰を強め、深めるからです。そしてどんな試練の中でも揺り動かされない信仰をもつことができるように私たちを成長させてくれるからです。私たちはこの祈りを通して、本当に「主が真実な方である」ことを実践的に学んでいくのです。私たちはこの祈りを通して、神がどんなに私たち一人一人のことを愛しておられるか、神の愛を知っていくのです。祈りを通して私たちは神をもっと深く知り、神への深い信仰、信頼をもつことができるようになるのです。

次に第二に、私たちは互いに祈り合うことを通して、教会の兄弟姉妹同士や教会間同士の愛が深まっていくのです。兄弟姉妹のためにとりなす祈りは、私たちの間に愛を生み出し、赦す心を与えてくれるのです。何故なら、祈りは私たちの心を神の真実、神の愛、キリストの忍耐へと向けさせて下さり、神がどんなに自分自身のことを愛し、赦して下さったかを思い起させてくれるからです。そして自分自身になされし神の赦しの心をもって他の兄弟姉妹を赦し、愛するすことができるように変えて下さるのです。そして、そのような祈りの力を覚える時に、パウロではありませんが、是非牧師のためにも祈って頂きたいと思うのです。信徒一人一人が牧師のために祈っていく時に、説教の聞き方が変わって来るそうです。特に、私たちの教会は現在牧師の交代という大きな転換期に差しかかっています。ところがこのリーダーシップの交代において中々うまくいかない教会が多いのであります。新任の牧師が信徒の様々な批判によってストレスを感じ、病気になったり、辞めたりしていくケースが増えているのです。つまり教会が新任牧師の育て方において失敗しているというのです。是非そのことを覚えて私たちの教会がお互いのために祈る教会へと成長させて頂きたいものです。

最後に三つ目として、パウロはこの祈りの要請を通して、彼らテサロニケ教会のクリスチャンたちにもパウロの宣教の働き、使命に共に参与してほしかったのではないのでしょうか。私たちは祈りを通して共に主の宣教の働きに参与できるのです。場所はテサロニケとコリントというように離れていても、同じキリストをかしらとする教会であり、同じ福音を宣べ伝えているのです。共に同じ主の宣教の働きに携わっているのです。ですから私たちは、他の教会や宣教師たちのために祈ることを通して、その宣教の働きに共に参加することができるのです。パウロはテサロニケ教会のクリスチャンたちに「私たちのために祈って下さい。」と祈りを要請することを通して彼らが自分の教会のためだけに祈るのではなく他の教会のためにも祈り、パウロと祈りを共有することを通して、パウロと同じ信仰、同じ宣教の使命を共有し、彼らがさらに成長していくことを何よりも願っていたのではないのでしょうか。

私たちもこのコロナ禍でこのパウロの祈りの要請、パウロの祈りを通して、互いに祈り合うことの大切さ、すばらしさを学び、互いに祈り合うことを実践していきたいと思うのです。